



会員入会状況

〈6月30日現在〉

| | |
|-------|------|
| 1月～3月 | 168件 |
| 4月～6月 | 51件 |
| 合計 | 219件 |

今後の活動予定

▶会員募集に向けての、西和賀地区での理事会および交流会開催

▶杏の会啓蒙活動としての米沢院長講演開催

※新型コロナウイルス感染症の影響により、予定を変更する場合があります。



センター開所式

「21世紀こそ こども達の世紀に」

杏の会 理事 木村 泰雄



子どもは未来もりおかこどもクリニックの玄関脇、ロータリー中央の杏の樹が見守る石碑に刻まれたこの言葉は、愛児会50周年記念事業の一環で石川敬治郎愛児会前会長の言葉です。石川先生は「20世紀の苦難の中で、人類の英知を良心が生み出した21世紀の子ども達への遺産とし“子どもの権利条約”がある」と述べています。

愛児会は“子どもこそ原点”とし、基本理念を「先駆的・開拓的・受容的な姿勢を貫く」とし、今日に至っています。

私は隣接の松園養護学校(現青松支援学校)を平成19年3月退職、藤澤昇会長に声をかけて頂き理事の一員に加えて頂きました。平成27年に杏の会2代目会長勝正孝氏の逝去後空席だった会長職に就き、施設・設備の修繕等への経済的支援を行ってきました。

100余年前、ポーランドの医師・教育者・福祉活動家・作家でもあったコルチャ

ックは、「子どもは希望と夢を持って自分の世界に生きる権利を持つ人間である」と述べてました。ユダヤ人であった彼は子ども達と共にホロコーストの犠牲となります。彼の思想・哲学・生き方をポーランドは宝とし、EUや国連に働きかけ“子どもの権利条約”とし1989年国連総会で採択されます。条約は子どもの最善の利益を求め、すべての子ども達の安心と心身の健やかな成長を発達を保障しようとするものです。

今日子どもを取り巻く状況は、家族の変容・格差・貧困・いじめ・不登校・ひきこもり...等々多様な課題を抱えています。愛児会が“子どもこそ原点”の理念を掲げ、医療・福祉・教育と連携し子どもの最善の利益を保障する活動を深化される事を熱望しています。

杏の会のご理解を深めご支援を広げ愛児会事業への応援を頂ければ幸いです。

児童心理援助・治療センターの開所と経過

子どもは未来もりおかこどもクリニック 院長 米沢 俊一

4月から曲がりなりにも、こどもクリニックとことりさわ学園の協同でセンターを立ち上げました。初日は写真のように会長も参席して開所式を行いました。

スタッフの構成はクリニック側は小生、診療部長、看護部長、看護主任、公認心理師の5名と学園側は園長、二人の教師OB、心理士3名の計8人です。

毎週水曜朝8時半に集合して、学園側の1週間で受けた相談内容の披露、当日の新患症例をクリニックから説明、その後双方で相談したい症例の検討会、最後に総合的な話題提供をして、約1時間のミーティングを行っています。

今までと違う点は...

- ①医療側としてはクリニックスタッフとは違う視点の教育(教師からみた評価)、福祉(愛着、家族状況)の面から意見をもらえること
- ②学校連携が青春塾(適応教室)を通して教師OBからアプローチを行えること

と必要なときはそのまま学校教育が青春塾で代替できること

- ③学校、医療、福祉の3者連携がその場で討議できること
- ④学園側としては、相談受けた症例が医療の見立てがスムーズに行えること
- ⑤見立てた後に患児にとって医療が必要なくても、学園で学校側と連携してフォローができること

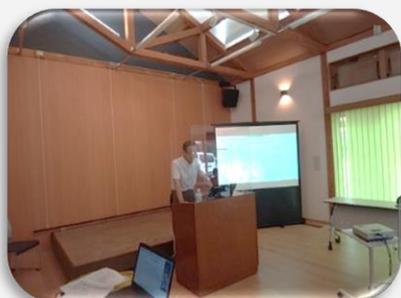
以上がこの3か月で見えてきた点です。小児科医にとっても毎週、学園職員からの見立てがすごく新鮮で、学校との壁が少しずつ低くなっていく感じがしています。

当センターは将来、学校不適応児の相談、援助、治療をワンストップで行えるように充実させていきたいと考えています。

全国でも例を見ない、不登校児童援助治療施設として皆様温かい見守りとご支援よろしくお願ひします。

◇当法人活動報告

ことりさわ学園内青春塾では、退園生の特性や興味関心を生かし、調理・習字・手芸・工芸等の表現活動に楽しく取り組んでいます。



8月3日(火)講演会

社会福祉法人 岩手愛児会
後援会 杏の会 事務局

E-mail
annzunokai@gmail.com

子ども達の未来に
寄り添ってみませんか…



Web サイト

URL:
<https://www.aiji.or.jp/publics/index/94/>

理事会開催状況報告

1)令和3年3月6日(土)
13時30分～
場所:こもりうたホール

議題

- (1)会員加入状況について
- (2)今後の後援会活動について
- (3)その他

2)令和3年6月5日(土)
13時30分～
場所:こもりうたホール

議題

- (1)令和2年度活動報告および収支決算について
- (2)会員加入状況について
- (3)令和3年度事業計画について
- (4)その他

《議事概要》

令和3年6月5日の理事会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、総会の代替開催として、令和2年度決算報告および令和3年度予算ならびに事業計画案等の議題について、以下の通り協議を行いました。

◇みどり学園サテライト施設「にしわが森の家自遊舎」を会場に、西和賀地区での理事会及び地元民との交流会を実施していきます。

◇ことりさわ学園と子どもの心身発達育成研究会主催の令和3年度学校教育相談夏季研修会を8月3日(火)に開催予定である。米沢院長講演ならびに「児童心理援助・治療センター」の活動報告を行い、教育関係者の会員拡大を勧めていきます。

◇杏の会啓蒙活動として、今秋に米沢院長講演の開催を計画していきます。

◇こども食堂構想について、コロナ禍では難しい状況だが、「一緒に語れる場」として不登校児を加えた子どもたちを視野に地区の先駆団体と共同した事業の検討を継続します。

◇松園リボーンプロジェクトがすすめられている中で、ことりさわ学園(児童心理援助・治療センター含)も松園の一旦として考え、今後も検討していきます。

◇みどり学園・ことりさわ学園の子どもたちは松園の学区であり、行事にも参加しているので、地域の子どもの文化の発展に愛児会の活動を位置づけていくことができると考えています。

尚、令和3年6月5日開催の理事会での協議内容等につきまして、会員の皆様へ書面にて報告といたします。

令和3年度学校教育相談夏季研修会をオンラインで開催

8月3日火曜日、みちのく・みどり学園の子守唄ホールを会場に令和3年度学校教育相談夏季研修会がオンラインで開催されました。今回は子どもは未来もりおかこどもクリニック院長の米沢俊一先生から、「児童心理援助・治療センターの試み」と題してご講演を頂き、教職員を中心に外部からは33名の参加がありました。

編集後記

世界は未だにパンデミック、新型コロナウイルス感染者数増加傾向の中で、第32回オリンピック東京大会が開催されましたが、世論も「不安」と「期待」に二分されたところでした。

子ども達や愛児会に関わり、支援・応援する者にとっても、この一年半余りは、「いのちと健康」「自由なふつうの生活」の大切さを身にしみて痛感した日々でした。

その中でも、全国の子ども達を取り巻く状況は、とても厳しいものでした。特に児童福祉施設等で生活している子ども達は、職員に守られながらも、本当に頑張ったと思います。

私ども「杏の会」の運営に携わる者としても、コロナ禍の中でも会員の皆さまの多大なるご厚意とご期待に、十分な対応や活動ができなくて恐縮しています。

子どもは、未来と社会の希望であり、「子どもこそ原点」の視点で、常に何かしらを発見・共有できる会報作りを目指していきます。

(村上)